

## 創刊号

Y-MOT  
ネットワーク通信

Vol. 1

(山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻支援ネットワーク)

## 『今こそ、MOTネットワークが必要な時』

Y-MOT代表 渡辺 毅



山形大学ものづくり技術経営学専攻(MOT)も2005年の開設以来早くも5年目を迎え、卒業生・学生の総数は、4コースにドクターコースを加えると約80名を越える大所帯となりました。これもひとえに、変化する時代の要請にそったカリキュラムを提供する大学の御努力と、地域の企業・団体等の御支援のお陰と感謝申し上げます。

今回、Y-MOTネットワーク(学生+OB会)が中心となり機関誌を発行する運びとなりました。地域の情報は、北は岩手県から南は岐阜県まで点在するMOTの仲間によって発信されますし、また所属する企業・官公庁・金融機関・各種団体や個人から得られる情報は膨大かつ有用なものとなるはずです。

また、忘れてはならないのは、アジア人材コースに入学した、海外からの仲間がもたらす情報も非常に貴重な存在となります。

これらの情報をいかに活用するかが我々の使命であり、また喜びでもあるはずです。年々増え続けるMOTの仲間とのネットワーク構築に、新たな夢を掛けてみませんか。

5年後には約200人の仲間がこの機関誌を握りどころとしたネットワークの発信源として、また活用仲間として存在することを脳裏に描いてみて下さい。そこには新しい未来が拓かれるかもしれません。

さらに我々はこのネットワークを活用しながら、新しい事業プランの創出も考えてみませんか！米沢の地(山形大学工学部)を拠点とし、産・学・官・金・労・医等との連携により地域の活性化に向けての取り組みや、仲間の抱える課題解決の支援等々、多分野に渡る事業が浮かんできます。

これらの事業を通じて外部との密接な関係を構築することが出来れば、我々の「ものづくり技術経営学専攻」の更なる発展につながるものと信じております。

是非皆様の、熱い想いのこもった楽しい有意義な機関誌となることを祈念致しまして、創刊にあたり御挨拶とさせていただきます。

## 『Y-MOTは、地域の財産！』

山形大学大学院MOT専攻長

教授 野長瀬 裕二



私が平成17年度途中に山形大学MOT専攻に赴任し、早5年目に入った。この専攻は周知の通り、高橋朗先生、小山先生、大場先生、高橋幸司先生、飯塚先生、尾形先生をはじめとするベンチャー精神に富む先生たちのお陰で産声を上げた。

特に、プログラム体系をブラッシュアップしていく過程において、プログラムディレクターであった高橋朗先生のお知恵をお借りした。「高橋朗イズム」を守り発展させていくことが、それ以来の私のテーマである。また、初代専攻長であった高橋幸司先生の行動力や情熱はすばらしく、MOT専攻の基礎は、「創業者」である両高橋先生のお力で構築されたと言っても過言ではないだろう。

平成18年度には、尾形先生、幹先生、宇佐見先生のご尽力で食品コースが立ち上げがなされた。

いうまでもなく、山形には優れた食品系企業や、食を熟知した農家が多い。まさに食・農リテラシーの高い山形の特性を反映したコースであり、食品コースの将来像についても検討を始めている。

平成20年度からは、高橋幸司先生、小野先生のリーダーシップでアジア人材コース、グローバル戦略コースの立ち上げがなされた。これらのコースでは、留学生を迎え入れ、地域産産人をグローバル市場へと送り出す。この事業を通じて、山形大学としてのグローバル教育のノウハウを蓄積していくことが私たちの使命であり、MOT卒業の皆様にも、ご指導・ご支援を賜りたいと願っている。

アメリカ、欧州の先進的大学の、既に質の良い留学生を世界中から集めることに成功している。こうした状況の中、人口減地域に立地する山形大学は、「らしいやり方」を見つける必要がある。

幸い、私達には、VBL教授の松田先生、産学連携教授の柴田先生という、経営感覚とグローバル感覚に優れた仲間がいる。企画力に優れた志村先生の存在も大きい。

また、山形大学MOT専攻の最大の財産は、渡辺OB会長をはじめとするOB会の皆様であり、応援して下さる地域産業界や地域行政の皆様である。こうした財産を大切にしていきたい。



## 『私とMOT』 シリーズ編

株式会社 高研  
取締役 山本博武

MOT一期生

・MOTに入學したきっかけ、動機は？。

新取締役に就任した時、社長から取締役研修を東京で受けるよう業務命令があったが、たまたま県工業技術センターで山形大学MOTの趣旨説明を高橋幸司先生から聞く機会に恵まれた。東京の役員研修と同様の研修・教育が山形大学で民間費用の半分で出来ることが判り、ついでにはMOTに入學出来たら山形大学MOTの教育をもって役員研修を終了したい事とした旨を説明し、社長からの承認を得て急遽受験し合格したことによる。

・2年間で苦労したこと、大変だったことは。

鶴岡からの冬の通学。特に吹雪の日の午前中の講義は、新庄廻りで行かねばならず大変だった。酷い時は鶴岡から学校まで4時間掛かった思い出がある。入学時の説明では平日の午後や夜の講義は、農学部でサテライト授業をやるとの事であったが、諸般の事情により出来なかった。しかしながら地理的問題で単位を落とすわけにもいかず、ぎりぎりの処で時間をつくり平日午後と夜の講義に出席した事。

・MOTで学ぶことについての会社の理解度・反応は。

当初役員研修を東京以外で行うことについて心配をしていたようだが、講義内容と成績表を常に社長に送っていたので社長はじめ会社の関係者の反応も理解度は良好だった。

・ご家族の反応は？

丁度子供の大学受験と重なった為、此方の受験に対しては冷ややかだった。MOT受験が時間的にタイトであった為、家内に対してMOTの意義を充分説明する時間的余裕が無く、今更何？と当初は冷ややかな反応だった。通学するようになってからは、車に氣をつけて、身体に氣をつけて、と随分良くなった。

・後輩に一言！

学び始めれば2年間は長いようで短い。(アツと言う間)

皆さんは学部生ではなく、大学院生であるという自覚を持ち、自ら進んで積極的に学ぶよう、努力して下さい。院生は大学院としての力(分析力・解析力・基礎力・説得力等)があると見なされます。それは学部生と比べての大きな違いであり、当然の如く他大学の大学院と比較されます。その事を理解し、山形大学大学院MOTが他の大学から侮られないよう精進、努力して下さい。

大学院修了生は学部生とは違って、それなりに高い能力が備わっていると社会はみなします。その評価を裏切らない為にも、自分から積極的に学んで下さい。

## MOT事務局便り

MOT事務局より、大学の動きやMOT専攻に関わる情報をお知らせ致します。

## ◎人事

・学部長選挙について  
去る7月21日(火)に工学部長選挙が開催され、大場好弘教授(現学部長・研究科長)が再選されました。9月1日より、新執行部により工学部・大学院理工学研究科の運営を行っております。

学部長(研究科長)

大場好弘教授(再選)

副学部長

黒田充紀教授

廣瀬文彦教授

高橋辰宏教授

小関俊宏

◎野長瀬裕二教授が、4月よりMOT専攻長に就任。

これに伴い、前専攻長であった高橋幸司教授は、副専攻長として引き続き専攻の運営に携わります。

## ◎MOT専攻関連行事

10月17日(土)

修士論文中間発表会

11月以降の予定

MOT連続シンポジウム

食品創製コースシンポジウム

もつとみらいコンソーシアム

(MOT事務局長 安藤)

## 《編集後記》

皆様の御協力により、創刊号の発刊を迎える事が出来ました。御寄稿頂いた方々に心から感謝申し上げます。沢山の御投稿を頂きましたが、紙面の都合で次号への掲載となりました事を御詫び申し上げます。

これからも、MOTの良き拠り所としての存在を目指したいと思いますので、皆様の長い目での御支援を御願い致します。

・編集委員：松下彬子、黒田三佳、佐藤広昭、江口幸也、遠藤一生、相澤崇明。

・アドバイザー：葛西聖仁、古木惣一郎、高橋先生、野長瀬先生、安藤事務局長(敬称略)

米沢街中サテライト  
「ものづくり・ひとづくり」

キャンパス「新設

山形大学工学部は米沢市及び山形県の地域活性化を推進する拠点として、米沢市中心の平和通り商店街に、10月1日付で山形大学工学部米沢街中サテライト「ものづくり・ひとづくり」キャンパスを新たに開設。

キャンパスでは、MOTグローバル戦略コースの授業及び産学連携・地域連携関連の事業等、米沢市及び山形県を元気にする取り組みを実施致します。YIMOTネットワークの事務局の機能も置き、渡辺代表が週に何日か駐在致します。在校生・卒業生の皆さんも米沢にお越しの際は気軽に立ち寄りください。

・場所：平和通り商店街

・開設曜日(予定)：火曜・土曜日

・開設時間(予定)：午前11時～午後6時

・電話番号：

0238-40-0761(代表)